

監訳者 西宮久雄

1961年生まれ。東京大学法学部卒。エレクトロニクスメーカー勤務を経て、2008年に米国バベル翻訳大学院（文芸・映像翻訳専攻）修了。

BABEL UNIVERSITY 講師。「未来を予見する5つの法則」（田坂広志著）、
「目に見えない資本主義」（同）の英訳出版に参画。翻訳書に「ループ
ビジネスを成功に導く七つの環」（M・チート&S・C・ランディン著）
がある。SF・怪奇幻想文学などへの造詣も深い。



Japanese at work（仮題「働く：日本人」）は、著者 **John Spiri** のライフワークともいえる「世界の職場シリーズ」の原点となった作品です。

教師として日本の各地で過ごした **Spiri** は、その土地で働く“ごく普通の人々”がどんな仕事をしているのかに興味を持ち、様々な職業の老若男女にインタビューを試みます。章題が「長崎」「熊本」「岐阜」「秋田」など地方色豊かなのも、そのためです。

普通、外国人が関心を持つ職業と言えば仏教僧や伝統工芸の職人など、日本古来のものに偏りがちですが、本書で取り上げられているのは、それだけにとどまりません。喫茶店主、保育士、医者、修理工といった日常的に出会う人々から、最新のテクノロジーを活用する技術者、そしてフリーターやホームレスにいたるまで、まさに過去から現在、そして未来にわたる「働く日本人」の姿を生き生きと伝えています。著者の素朴な質問に、相手が丁寧に答えるQ&A形式をそのまま再現しているため、日本の多彩な職業人の生き様や本音が伝わってきます。私たち日本人から見ても、なじみのある職業もあれば、名前は聞いたことがあっても実態を知らないものもあり、もしかしたら今回初めて知ったという職業もあるかもしれません。

外国人の視点からながめた「日本人の仕事、働き方」は、私たち日本人が日ごろから抱いている「職業観、仕事観」とは一味違う、新鮮な視点を与えてくれます。本書の翻訳を通して、「日本人とは何か」という原点や、「日本人とはこうあるべき」という未来像を、あらためて考えることができるのではないかと思います。